

広瀬 剛道さんvol.2

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月22日

Vol.1に引続き、品川の今と昔の写真を撮り続けている広瀬剛道さん取材レポート♪写真の比較をしながら広瀬さんは色々なお話をしてくださいました。そのお話をご紹介します。

■列車で運ばれるお荷物

品川の昔の写真を探している広瀬さんですが、どうしても見つからない写真の一つに「糞尿回収」があるそうです。昔は一軒一軒のお宅に肥溜め用の壺があり、長いひしゃくで溜まった糞尿をすくい、樽で回収してくれたそうです。糞尿券を事前に購入し、汲み取ってもらった後に、券を渡すシステムだったそうです。昔、東京で糞尿が余ったことがあり、余った糞尿は西武鉄道（昔の武蔵野鉄道）の糞尿運搬列車に揺られ、遠くの畑まで運ばれ肥料となった時代もあったとか。

ゴミの回収は昔から無料、しかし、糞尿回収は昔から有料！「何故？」と思ってしまいましたが、私たちが食物を口にしてから体内で栄養となり、排泄された後、列車にゆられ畑の肥料となり、また植物を成長させるまでに、「こんなに長旅をしているんだ！」と感動。「ならば旅費代ということで」と広瀬さんのお話を伺って勝手に納得してしまいました。



大井町駅本屋口前広場写真

左：平成13年

右：昭和28年 出典：「ノスタルジー写真館」 東京商工会議所品川支部

■競艇場が海水浴場？

平和島にある競艇場。昔ああたりに狭いながらも砂浜の海水浴場があったそうです。若かりし頃の広瀬さんも何度か泳ぎに出かけていたそうです。広瀬さんがニコニコしているので「青春時代を思い出したのかしら？」と思ってお話を伺うと.....

■船で運ばれるお荷物

今、清掃事務所がある場所は昔、糞尿を集める場所だったそうです。品川で集められた糞尿はそこから船により運ばれ、東京湾外に捨てられたそう。しかし中には東京湾内に捨ててしまういい加減な船長さんもいたそうで.....、海水浴を楽しんでいる横で「あれ～?!」という経験をしたことがあったそうです。



旧目黒川（北品川2丁目付近）

左：平成13年

右：昭和39年出典：「しながわ物語」品川区

■取材を終えて

「立っているのが商売だから！」の言葉通り、立ったままで2時間の時があつと

品川今昔

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月23日

品川に生まれ育ち、「第二の故郷なんていない！引越しも考えたことなし！！」と、大井町をこよなく愛する広瀬さんをご紹介します♪
昔写された品川の写真をもとに、同じ場所から「今の品川」を撮り続けている。「しながわの姿」を残し、伝えていきたい！という志をもった方でした。

「昔と今の写真を見比べると、周囲の環境が変わったことがよくわかる。」

良きも悪き（！？）も、品川を知る広瀬さんに、ちょっと昔のお話を伺いにいってきました。

■プロフィール

昭和13年生まれ

大井町に生まれ、大井町育ち。

父の代から理髪店を開業し、2代目として現在も同場所にて経営中。

品川の昔の写真をもとに、その場所を探し出し、同じアングルから現在の写真を撮り、比較している。

理髪店を営みながら、過去の品川調査を行っている。



理髪店経営

広瀬 剛道さん

■ヒロセ理髪店にて

「こんにちわー！よろしくおねがいしますっ！」と定休日に押しかけた私たちを、広瀬さんは笑顔で迎えてくれた。店内は理髪店特有のいい匂いが。小さい頃、兄と弟だけが理髪店に行けるのをうらやましく思っていた記憶がよみがえり、ちょっとりくすぐったい気持ちでいると、「まあ、まあ、座りなさい！！」と大きな声が！！理髪店初体験でキョロキョロしている私に、お客様が順番を待つベンチに腰掛けるよう勧めてくれた。「広瀬さんは、？」との問いに「立っているのが商売だから！！」と豪快に笑った笑顔がとても印象的でした。



店内は整髪料のいい匂いが。

使い込んだはさみがカッコいいです。

■品川の過去

広瀬さんが昔の写真と今の写真を比較するようになったのは、60歳を過ぎてから。目まぐるしく変わっていく街並みを眺めながら、昔を懐かしむ気持ちが大きくなっていったからだという。生まれたときから変わらず同じ場所で生活している広瀬さんにとって、過去68年間の周囲の変化というのは、経過を思い出したくても今は記憶だけがたよりだという。刻一刻と変化する街並みをフィルムに残し、後生へと伝えたいという気持ちから、「自分の小さかった頃はどうか」と興味湧き上がり、品川の過去探しを始めたそうです。

■ゴミ収集車の変身

下の写真は広瀬さんのコレクションの一つ。

昔は家の前に大きなゴミ箱があり、後ろに積んであるかごでそのゴミ箱からゴミをすくい、トラックへと運び、収集してくれていたそうです。今の収集車と比べ、運べるゴミの量は少なく、多くの人手が必要でした。



平成13年（2001）



昭和32年（1957） 出典「しながわ物語」品川区



昭和29年（1954） 出典「しながわ物語」品川区

■次回予告

今回に引続き、広瀬剛道さんの「品川今昔」をレポートします！水洗トイレになる前のお話。海水浴場に浮かぶ恐ろしいモノとは？！

お楽しみに♪

■お知らせ

広瀬剛道さんの品川を点と点で結ぶ活動はこれからも続きます。品川の昔の写真や歴史を知っている方がいらっしゃいましたら、是非！環境情報活動センターまでご連絡ください。お待ちしております♪

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月23日

センター紹介

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月23日

この記事は、環境情報活動センター移転前の内容です。

移転後の紹介については後日掲載いたしますので、しばらくお待ちください。

=====

こんにちは！ホームページがリニューアルし、新しいコーナーが始まりました。環境情報活動センターの事務局員が、「ECOなトピックス」をレポートし、みなさまにご紹介いたします！

初レポート第1弾は、私たちの基地である「品川区環境情報活動センター」をご案内します。

■カフェ気分

入り口を抜けると、まず最初にこんな風景が。6人座れる丸いテーブルが2つあり、カフェにいるような気分で打ち合わせや読書ができます。でもセンター内は飲食禁止になっていますので、気分だけ.....。



■資料コーナー

進んで奥には200冊強の環境に関する本、雑誌、写真集があり、専門書からお子さま向けの図書まで、ご自由に閲覧できます。また、当センターのホームページや環境について調べられるように、パソコンを1台ご用意しています。

その横には、小さな会議に最適な8人が座れるコーナーがあり、パソコンをモニターにつなげてご利用いただけます。

夏休みの学習課題など、大きな紙に描いたり、資料を広げ勉強するのも最適ですよ♪



■セミナールーム

まだまだ続いてその横には、ガラスで区切られたセミナールームがあり、最大定員36名で、会議や講習会、環境講座などにご利用いただけます。（予約が必要になります。ご予約は[→こちら](#)）。環境講座ではどんぐりでカレンダーを作ったり、こけ玉や盆栽講座、リサイクル講座を開催しています。（これから開催される環境講座については（[→こちら](#)）過去に開催された講座は（[→こちら](#)）をご参考下さい。）



「品川区環境情報活動センター」は私たち事務局員の基地であり、そしてみなさまが環境について考え、調べ、学び、楽しんでいただける場所になることを目指しています♪

センター内の施設は無料でご利用いただけます。セミナールームの予約、環境講座の申込みも随時窓口で受け付けておりますので、ぜひぜひ遊びに来てください！

■次回予告

今回は本当の第1弾！品川生まれで品川育ち、品川の古き良き（も、悪きも！）時を知る、大井町で理髪店を営む広瀬剛道さんをレポートします。半世紀以上前の品川の写真をたよりに、同じ場所を探して現在の写真を撮り比較しているとか.....。

お楽しみに！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月23日

帽子のブローチ

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月24日

東京都にお住まいの村沢 敏子さんからの投稿



かわいいブローチが簡単に手作りできます。

このブローチはペットボトルのフタにくるくるとかわいい紐を巻きつけ、帽子のつばとなる部分には、厚紙を使用し、同じくクルクル巻きつけ作ります。（接着には両面テープを使用）

飾りに小ぶりのお花の造花をつければ小さな帽子のブローチの出来上がりです！

紐の色を変えたり、形を変えれば、色々な帽子が作れますよ♪

こちらは、センターご利用の村沢さまよりご紹介頂きました。ありがとうございます！センターに展示しておりますので、是非ご覧ください。

【管理者から】

ペットボトルのフタ？

本当にペットボトルのフタ？と思わず驚いてしまいました。帽子に「帽子のブローチ」をつけてもかわいいでしょうね♪

キーホルダーや、携帯電話のストラップにしてもかわいらしいですね！今人気のコサージュとしても使えますね♪

※この記事は「ECOの知恵袋」からの転載です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月24日

牛乳パックの名刺入れ

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月25日

西中延にお住まいの池田さんからの投稿



綺麗な和紙の名刺入れ。実は牛乳パックを利用した名刺入れなのです。
牛乳パックを名刺が入る大きさに形づくり、和紙で表面を綺麗に装飾しています。

牛乳パックはとっても丈夫なので、何度折り曲げても破れる心配はありません。
こちらは西中延にお住まいの池田さまが作成、センターにご紹介くださいました。池田さま、ありがとうございます！センターに展示しております。

【管理者から】

あんなものがこんなものに？

身近なものを利用して、名刺入れを作るアイデアが素晴らしいですね！
実物を拝見しますと、とても丈夫ですし、和風なところがいいですね♪
牛乳パックをリサイクルしたものとは思えない名刺入れです。
牛乳パックと和紙を使って、他にも色々なお役立ちグッズが作れそうですね♪

※この記事は「ECOの知恵袋」からの転載です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月25日

江戸的グルメ今昔

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月25日

9月～10月（旧暦）になると、南のほうより潮の流れに従ってやってくる。鮫津（さめず）の海岸から沖へ180mも柴を立て、潮が来ればこの柴につく。毎朝干潮のときに取りに来て、箸で塵（ゴミ）を取り去り、洗った後に包丁で細かく叩き、水に入れて6～7合の枡ではかり、簾（すだれ）の内に流し満たす。簾の上下には枠を置く、その中に入れるので同じ形になる。南向きに芦の簾を立て掛け、長さ50m程に並べる、横に縁を付け、その縁の下に漉いた簾のまま立掛け日乾しにする。（「中陵漫録」より意識）



今の鮫洲沖にはそのような風景はない、やり方は時代とともに変わっていったが、品川・大森の海苔養殖は昭和38年の春摘みを最後にその風景は見られなくなった。さて何の話かという、海苔の話。

江戸中期以降、浅草海苔といえば、品川・大森で採れたものを使っていたが、それ以前は海水と淡水の交わる汽水域であった浅草近辺で作られていたそうであるが、深川あたりでも作られていたようである。

和漢三才図会には、「葛西苔（のり）と浅草苔は紫蒼（しそう）色で味は甘味がある、紀州の妹背苔これに次ぐ、品川苔は紫色ならず、味またはるかに劣る」とある。

寛政七年（1795年）の随筆「譚海」巻十三に、浅草のり、江戸にて入梅の季節になれば、風味変じてまずくなる、春の初めに一年分の海苔を買い、残らず火であぶり、粉にして、ガラス瓶へ入れておき、必要なときに振りかけて使う、風味はそのままで変わらないとある、ふりかけ海苔の元祖である。

2006年2月2日川崎市川崎区が多摩川河口で「アサクサノリ」の自生群落が見つかったという、ただ、地元の漁師や市の担当職員の間では「ダイシノリ」として知られていたもので、DNA鑑定の結果「アサクサノリ」であるとわかった次第。

地元では長年にわたり環境保護や浄化に努めてきた、小学校では毎月隔週日曜日早朝に市職員のサポートによるゴミ拾いなどを実施、そして多くの市内団体が多摩川の環境保護に活動してきた。

その結果が「アサクサノリ」の自生地の保存につながった。

いつか東京湾で採れたアサクサノリが食卓に上ることを願いつつ。

■筆者■

ペンネーム スペック最適☆さん

品川区在住在勤 いかなるテーマでも最低2時間は語れる博学多識王

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月25日

6月4日はエコ☆フェス～石井の場合～

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月28日

6月4日はエコ・フェスティバル！

環境情報活動センター事務局スタッフの中の若き新人、石井がこのエコフェスにてストリートライブを披露します。

彼は高校時代から品川区環境推進会議のメンバーとして会議に参加、大学でも環境について学んでいます。品川に住み、品川の海と川を愛し、「環境」の視点から街を眺めてきました。

彼の目に写る品川は、輝いているのか病んでいるのか。

内なる闘志？を歌に込め、大学の親友と共にギター片手に熱唱します♪

■日時 6月4日（日）12：30～

■場所 しながわ中央公園グラウンド ミニステージ

もちろんエコソング♪あります！

乞うご期待！！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

当日の様子です



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年05月28日

6月4日 環境講座「竹の大根てっぽう」&パネル展

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月02日

6月5日は「環境の日」♪国連でも6月5日を「世界環境デー」と定めており、まさに6月は環境月間！みんなで環境を考える月なのです。品川区では6月4日に「エコフイスタイバル」を開催いたします。

環境情報活動センターでも、エコフイスタイバルの催し物として、環境講座「竹の大根てっぽう作り」を実施いたします！ご家族でご参加ください♪大根の弾が的の100点部分に命中した方に、すてきなプレゼントをご用意しています！

また、センター内には、今までに実施した環境講座の作品や、講座の様子をパネル展示しました。

「環境情報活動センターって何をしているところ？」の問いに、お答えします。

■環境講座「昔なつかしのおもちゃ・竹の大根てっぽうを作ろう！」

場所：環境情報活動センター前オープンスペース

時間：10：00～14：00（先着50名材料がなくなり次第終了）

先着50名様、参加費無料

■パネル展示

場所：環境情報活動センター内 セミナー室

時間：9：00～16：30

■お問合せ

環境情報活動センター(品川区役所第2庁舎3F)

? 03-5742-6533



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月02日

「アイ」の種を頂きました

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月04日

「徳島の知人から藍の種を頂戴したのですが、そちらでの環境教育に役立てては頂けませんでしょうか。」それは予期せぬ突然のお電話でした。「是非、センターで育てて、子供たちと草木染を楽しみたいと思います。」とお答えした数日後、育て方・染め方がびっしりと書かれた2枚の便箋とともに、藍の種が送られてきました。



まずは、プランターに種を植え、毎日水やりをし、2週間後の発芽を待ちます。

「こけ玉をつくろう」など、センターの環境講座で活躍されている、園芸研究家の伊藤先生にご指導を仰ぐと、さっそく「センター内では日照が少ないので屋外に」「種の大きさが米粒より小さいでしょう。だから、種にかぶせる土は、ほんのわずかで。ティッシュを湿らせてかけておいてもいい。」などたくさんのアドバイスをいただきました。

プランターは区役所屋上にて、種をふくらませている最中です。

環境情報センターは、こうやって地域の方々のご提案やあたたかな眼差しに支えられて、成り立っていくのだ、なんて素敵なことだろう。シャベルで土をいじりながら、しみじみとそのことをかみしめた春の日でした。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月04日

「ヤゴ救出作戦」を追う！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月15日

夏を目前に、「勝島運河倶楽部」と「虫メガネ研究所」では「ヤゴ救出作戦」の調査を行っています。

その壮大な救出作戦を、環境情報活動センターでは応援追跡し、レポートします！
2007年には多くのトンボがしながわの青い空に飛ぶことを願って.....

☆☆☆☆☆☆ 「ヤゴ救出作戦」とは?! ☆☆☆☆☆☆

もうすぐ夏！夏といえばプール！

多くの学校で、夏にむけたプール掃除がはじまっています。

秋、冬とその存在を忘れられたプールは雨水や落ち葉でドロドロ.....

しかし、そんな緑の水の中にもたくさんの生命が宿っているのです。

私たちが夏、プールで楽しむために、その命の多くは消えてしまっていたのです。

そこで！プール掃除で水が流されてしまう前に、水中に芽生えた命をすくう「ヤゴ救

出作戦」を2007年に行います。

学校などのプールにいるヤゴ（トンボの幼虫）を、夏のプール掃除前に救出し、トンボに孵（かえ）し、しながわの青い空に飛ばしてあげましょう！という壮大なプロジェクトです。

☆☆☆☆☆☆ 「ヤゴ救出作戦」の調査vol.1 ☆☆☆☆☆☆

- 勝島運河倶楽部・虫メガネ研究所レポ -

来年度に大々的に行う予定の、「ヤゴ救出作戦」の調査に、鮫浜小学校のプールに行

きました。

掃除前のプールの水は緑色で、いかにも何かがいそうな雰囲気です。

たくさんのアメンボが水面にいました。

アメンボのいるところにセミなど虫が落ちると、アメンボが集まって、チューチュー体液を吸う所を見ることができる。この様子は不気味だけど必見。

ヨツデで手の届く範囲を、1時間くらい掬いました。

トータル的にヤゴ13匹ゲット。子どもたちに見てもらえばいいかなと思い、元気そうな7匹を水槽に入れ校長先生に預けました。

これならプールの水抜きの日「ヤゴ救出作戦」を行えば多く救えることを確信。

このあと、浜川中学校など調査を続け、来年度各所で一斉に本格的な「ヤゴ救出作戦」を行います。

☆☆☆☆☆☆ 「ヤゴ救出作戦」の調査vol.2 ☆☆☆☆☆☆

次回、浜川中学校での「ヤゴ救出作戦」調査を引き続きレポートします。

お楽しみに♪

☆☆☆☆☆☆ MEMO ☆☆☆☆☆☆

「ヤゴ救出作戦」を行っている「カエルクラブ」さんをご紹介します

♪<http://www.kaeruclub.net/yago/>

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月15日

浜川中学校のプールにて

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月21日

6月17日午前、虫メガネ研究所の南孝彦さんと嶋村泰輝さんに同行し、浜川中学校へ「ヤゴ救出作戦調査」を行いました。

そのときの様子をレポートします！

●ヤゴのヤゴ●ヤゴ○「これでヤゴを救出できるのか？」○ヤゴ●ヤゴ○ヤゴ●

前日に、ヤゴをすくう網を購入しようとインターネットで調べてみました。

しかし、魚用の網では、網目が大きくヤゴはすくえない.....

熱帯魚用の網は、網目は細かいものの、長さが足りない.....

「これはイイ！」と思っても、大きすぎて重たい.....

プールの底を歩いているヤゴをすくうには、網目の細かさ、プールの底まで届く棒の長さが必要でした。

そこで、小学生でもブンブン振りまわせる虫取り網を参考に、「ヤゴ救出網」を作ってみることに！

♪用意するもの♪

☆はりがねハンガー

☆突っ張り棒（長めがいい）

☆網（網目の細かいもの）

□50cm×60cm

※今回は網戸用の網を使用

☆針・糸

☆ペンチ



◆網を袋状に縫います。袋の口の部分が、針金ハンガーの外周と同じになるように。

◆ペンチで針金ハンガーの引っ掛ける部分を、まっすぐに伸ばします。



◆突っ張り棒の細い方のキャップをはずし、伸ばしたハンガーのねじ込みます。引っ張り棒の中にはネジが切つてあるので、ねじ込むことにより、強度が増します。

◆完成！今回はこのような網を使って、ヤゴを救出しました。一番右が完成品です♪



♫♫♫♫♫ 「6月17日ヤゴ救出日」 ♫♫♫♫♫

当日はとても天気がいく、最高の「ヤゴ救出作戦」調査日和となりました♪

網も持ったし、あとはプールにヤゴがいることを願って.....

浜川中学校に着くと、土曜日にもかかわらず、管理人さんがこころよくプールへと案内していただきました。

♫♫♫♫♫ 「いざ出陣！」 ♫♫♫♫♫

「緑色の水」が満ちているプールのふちにいざ立つと、この見えないプールの底にはヤゴではなく、未知の生物が潜んでいるのではないかと感じてしまうくらい、本当にきれいな怪しい「緑の水」なのです。



何度もヤゴ調査をされている南氏も「このプールはたくさんいそうだね。」と緑の水を眺めながら意気込んでいました。

網を投入すると、さっそくヤゴが網にかかりました。感動しながらも網を入れては出して、ヤゴがいるかをチェックする動きを繰り返すこと1時間。バケツの中は大量のヤゴで底が見えないほどに。4人で1時間ほどすくった結果、70～80匹のヤゴを救出することができました。



すくったヤゴは、1/3を調査協力いただいた浜川中学校の生徒たちに見てもらうため、管理人さんに預けました。

残りは「水神児童センター」「大井第一小学校」「環境情報活動センター」の各ビオトープにて、羽化の時を待っています。

今回、浜川中学校などのプールで実際にプールのヤゴ救出を行い、多くのヤゴがプール掃除の日に流されていたことを痛感しました。プールのふちを手の届く範囲で調査しただけでもバケツの底が見えないほどのヤゴがいたのですから。

自作の網は、網戸の網を使用したため、目の細かさは良かったのですが、網が硬く、ヤゴをバケツに移す作業にてこずりました。改善が必要ですね！

次回は「ヤゴレスキュー」を授業の一環として行っている戸越小学校をご紹介します。

カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年06月21日

イエメンの女性の服装

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月23日

今回はイエメン女性の服装について書きたいと思います。下の写真は、紅海沿岸にあるホデイダで撮影した写真です。「この黒い影はなんだ？」と驚かれた方もいるかもしれませんが、れっきとした人間の女性です。

イエメンでは、宗教的な理由と伝統により、女性の95%はこんな格好をしています。真っ黒の服を身に着け、髪の毛をスカーフで覆い、さらに顔も黒い布で隠します。女性が顔を見られるのは「恥ずかしいこと」とされています。



写真を撮ってくれと頼んできた若い夫婦（ホデイダにて）



基本的に女性の写真を撮ることは禁止。（だから遠くから撮りました。）海に入る時も・・・

（アデンにて）

「抑圧されていてかわいそう」という見方もあるかもしれませんが、でも自分でも身につけてみるとわかります。イエメンの気候と自然環境においては、この服装は意外と快適なのです。というのは、イエメンは、

1. 陽射しがきつい
2. 非常に乾燥している
3. どこもかしこもホコリっぽい

そして車の排気ガスもひどいです。この黒装束は、日焼け（イエメンでも肌の白い人が一般的に美人と言われます）や、髪の毛がホコリまみれになるのを防ぎます。つまり美容のためにはこっちの方がいいかもしれません。

でも黒装束の中は皆しっかりおしゃれをしていますし、黒服の裾からジーンズなどが見えることもしばしばあります。またショッピングセンターなどいつも黒服の女性でごった返していますし、女性がおしゃれに目がないのは万国共通のようです。



イエメン女性も年頃に達するまでは顔を出している（サナア旧市街にて）

■筆者紹介■

山本麻子 品川区在住。大学時代に出会ったアラビア語の魅力にとりつかれ、アラビア半島南部に位置するイエメン共和国への留学を経て、現在、フリーのアラビア語通訳・翻訳者。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年06月23日

戸越小学校vol.2

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月04日

6月20日（火）

戸越小学校 松丸 剛校長先生のもとへ、「ヤゴ救出作戦！」調査を行っている虫メガネ研究所の南孝彦さんと環境課根津千賀子さんと共にお話を伺いに行きました。

もともと戸越公園の隣で環境の良い場所にある戸越小学校で「ヤゴレスキュー」とは、自然の流れで取り組まれてきた授業の一つであるという。以前の1・2年生の担任の先生が「ヤゴレスキュー」に興味をもち、立ち上がって以来毎年続けて行われているそうです。しかし、「ヤゴレスキュー」をすることで、子どもの心の変化もみられたという。

去年の2年生は教室で飼育していたヤゴを羽化させ、トンボになって旅立つ瞬間を「拍手」で見送ったのだそう。自分たちが救った命、羽化の瞬間を見るという貴重な体験、そして見送る時に自然にわいた拍手.....子どもたちは「ヤゴレスキュー」を通じて、多くのことを学び、成長したという。

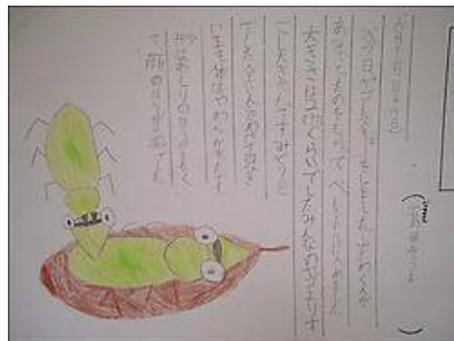


戸越小学校では、ヤゴレスキューの他に「自然園」にも力を入れており、子どもたちが「自然に自然を学ぶ場」が充実していると感じました。

今回のヤゴレスキューですくったヤゴは2年生の廊下で、静かに羽化の時を待っていました。また、トンボさんの旅立ちを見送れるといいですね♪



同じく廊下の壁には、「ヤゴレスキュー」についての作文が掲示されていました。かわいらしい絵に、素直な文章が、心をあたたかい気持ちにさせてくれました。



取材をこころよく引き受けてくださった松丸校長先生、関係者のみなさま、どうもありがとうございました。

カテゴリ: 平成18年度

投稿日: 2006年07月04日

戸越小学校のヤゴレスキュー

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月04日

6月12日（月）に戸越小学校で1・2年生の授業の一環として「ヤゴレスキュー」が行われました。

半ズボンの子、水着の子、半分はだかの子、先生の説明を聞いた後に「待ってました！」とばかりプールの中へ。



毎年プール掃除の前に恒例となった戸越小学校の「ヤゴレスキュー」は2年生がプールに入ってヤゴを救出し、1年生はプールには入らずプールサイドで主事さんがプールからすくった落ち葉の中からヤゴを救出するかたち。

去年はプールサイドでヤゴレスキューをした2年生は、「1年生にヤゴをとってあげるんだ！」と張り切っていました。しかし、プールの水は緑色でヤゴは見え、足元はツルツル、ヌルヌル.....



そんな状況にもすぐになれ、ひざまで水につかりながらも、ヤゴを探して大騒ぎ！プールの底をすくった網の中には、落ち葉がたくさん。その落ち葉をかき分けるとヤゴがいました。



2年生がすくったヤゴは、ヤゴを探せなかった1年生へプレゼントされます。2年生のおにいさん、おねえさんは大きな声で「ヤゴあたってない人いるかー？」「まだもらってない人手あげてー！」。

1年生は用意していたペットボトルにプレゼントされたヤゴを入れ、大切に眺めながら、「来年は1年生に僕・私たちがとってあげるんだ！」と意気込んでい

るように感じました。来年はがんばってね！



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月04日

森の人 オランウータン

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月12日

6月10日、地元北海道に帰省したさい、家族で今話題の旭山動物園に行ってきました♪

区民のみなさんの中にも「行きたいなあ〜」と思っている方がいるはず！！そこで、旭山動物園での驚きをレポートします♪

○ ★ ○ ★ ○ ★ ○ ★ ○ ★ ○ ★ ○ ★ ○ ★ ○
★

小雨が降る中、家族4人で傘をさしながらトボトボ園内に入ると、予想以上の人でまず驚き！雨の日の動物園といえば、数人のお客さんと園のスタッフさんくらいだと予想していましたが、そこはさすが今話題の動物園！私のような日程を変えられない旅行者の方々がたくさんいらっしゃいました。しかし、やはり雨ということもあり、順番待ちをすることはなく、スイスイ♪とペンギン館>あざらし館>ほっきょくぐま館>もうじゅう館>.....そしておらんうーたん館に到着です！

■ オランウータンは人（ヒト）？

マレー語で「森の人」を意味するオランウータン！

おらんうーたん舎（屋外）では、麻袋をかぶって「リアン♀」が雨をしのいでいました。そして昨年OPENしたおらんうーたん館（屋内）では「ジャック♂」が1人（？）ご機嫌ななめな様子で.....

再び屋外へいくと、まだ麻袋の位置を気にしながら雨をしのぐリアン、、、のおなかかモゾモゾ動いている？なんとリアンには「モモちゃん」という子どもがいて、モモちゃんが雨にぬれないように麻袋をかぶっていたのです！！感動しながら次へ移動しようと思ったら、動物紹介に「おらんうーたん=サル目ヒト科」.....！？やはりヒト（科）なのですなああのやさしそうに子どもをなでるしぐさは、人以上に思っていました。



♪参照：「オランウータン」 出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』(2006, 5月 31). Wikipedia, Retrieved 12:57, 6月 14, 2006

♪参照：「人（ヒト）」 出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』(2006, 6月 10). Wikipedia, Retrieved 13:38, 6月 14, 2006

オランウータンはインドネシアのボルネオ島、スマトラ島にしか生存しない動物です。子ども思いのオランウータン。しかし今、森林伐採や、資源開発、山火事などにより、住家を失った野生のオランウータンはその数を減らしています。「森の人」とよばれるオランウータンが絶滅することのないように、私たち「人間」は自

然環境を考えなくてはなりません。

森の住人から森を奪うことのないように、一人一人が小さなことから「自然にやさしい活動」を確実に実行していく必要が求められていると考えさせられました。

家族で行った旭山動物園。とても楽しく、勉強にもなりよい思い出になりました♪

そして、東京に戻った私は、「自然にやさしい活動」を一つはじめました。それはもう絶対に割り箸を使わない！！というものです。（すでに実行されている方もいらっしゃると思いますが.....）

6月4日（日）に開催された品川区エコフイスタで「my 箸袋」をリサイクルショップリボンで購入していたので、それにmy お箸を入れて持ち歩いています♪

本当に小さなことですが、その輪が広がることを願っています。

vol.2では「旭山動物園のバイオトイレ」を紹介します！お楽しみに♪

5月環境情報活動センターにて、環境講座「これからの森づくりと環境を考える」が開催されました。

過去の講座紹介は [\(こちら→\)](#)

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月12日

旭山動物園のバイオトイレ

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月12日



こんなトイレの看板が.....

気になったのですが、まずは動物を見なくては！と思い通り過ぎました。一通り動物を見て、あとは帰るだけ♪となったとき、また「バイオトイレ」の看板.....

迷わずデジカメをもってトイレに入りました。なにやらエコなおいが！

ログハウス風の室内はとてもきれいで、洗面台もついており、広々。そしてトイレ特有のニオイがまったくしないのです。芳香剤でニオイを消しているというわけでもなく、無臭なのです。

キョロキョロしながらトイレの中を覗くと、便座の下におが屑が！そしてピカリと光る銀色のスクリューがちらり。



eco★eco☆ eco★eco☆eco★ バイオトイレ
★eco☆eco★eco☆eco★

バイオトイレとは、おが屑と体内（腸内）バクテリアの働きにより、排泄物を分解するという、水を使わないドライトイレ。

糞尿やトイレットペーパーは、おが屑と腸内の何十億という微生物のみによって分解され処理されるという、とても画期的なエコトイレなのです。（バイオトイレの仕組みは[こちら](#)→） おが屑とバイオ（bio=生物）を使って尿尿を処理し、そして交換時期となった旭山動物園のおが屑は、良質な肥料となってリサイクルされおいしい野菜を育てているそうです。

水を使わず、汲みとりを必要としない「バイオトイレ」は、下水が整っていない場所での使用が可能、寒冷地での水道凍結の心配もなく、生ゴミ処理としても使

え、そしてなによりおが屑もリサイクルでき、ゴミがでない！地球にやさしいトイレなのです♪

話題となり来場者が増え、北海道で冬季に動物園を開館するという前代未聞の試みをした「旭山動物園」にとって、下水設備と凍結の心配がいらぬ仮設トイレ「バイオトイレ」は、希望にぴったりのものだったのです。

日本では設置されている場所がとても少なく、まだ認知されていないかもしれませんが、海外からは熱い注目を浴びている「バイオトイレ」。北京オリンピックに向けて「バイオトイレ」を設置するという話もあるそうです。

日本では下水設備が整っている場所は水洗トイレを設置することと法律で決まっております。まだまだ都内で「バイオトイレ」を見かけることは少ないと思いますが、環境にやさしいバイオトイレは、徐々にその必要性を問われているのではないのでしょうか？

現在では家畜用のバイオトイレの開発が進められており、家畜の排泄物処理に頭を痛めていた酪農家の方々の悩み解決も目前となっています。そしてそれが実現された時には、お馬さんや、お牛さんが食するスウィートコーンも、おが屑の力でより美味なものとなることでしょうか♪

人間だけではなく、ペット用のバイオトイレも販売されており、「燃えるゴミの日」を待たずして、二オイを気にせず排泄物の処理をできるコンポスト型「バイオトイレ」は、ブリーダーさん達からも熱い視線を浴びているそうです♪

eco★eco☆ eco★eco☆eco★ MEMO
★eco☆eco★eco☆eco★eco

バイオトイレの感想は.....

室内はキレイ、二オイは無し。しかし、おが屑とスクリューの上に腰を下ろすには、少々勇気がいりました！

下がおが屑ということで「音」までも吸収してくれ、音が気になって水をジャージャー流す必要もありません。そして、ついに！水を流すのではなく、「スクリュー」でおが屑をかき混ぜるためのボタンをON♪

ぐるんぐるんとゆっくりスクリューはまわり、トイレットペーパーも見えなくなりました。

ずーっと眺めていたかったのですが、ここまで環境を考えたトイレで、私がムダな電力を使ってはっ！！と我にかえり、トイレを後にしました。

旭山動物園へ行ったさい、また、どこかで「バイオトイレ」を見つけたときは、是非！試してみてください♪

今回、詳細・参考としてご協力いただきました「正和電工」さんありがとうございました。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月12日

必要なものを必要な量だけ買う

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月13日

「グリーンコンシューマー」ってご存知ですか？

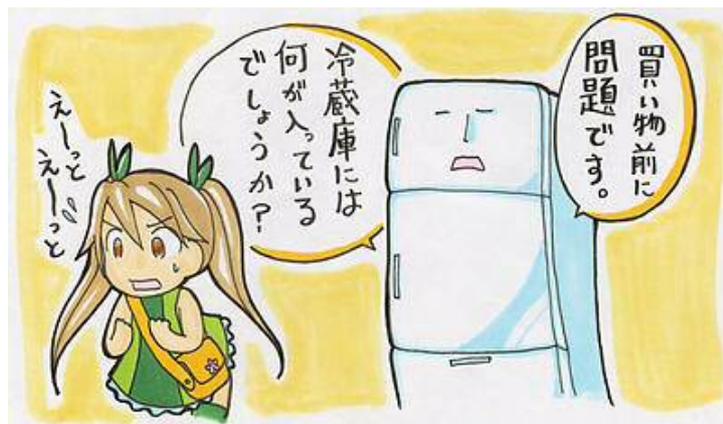
健康や環境に悪影響を与えないくらしを実践する消費者のことです。

この「グリーンコンシューマー」として研究会に所属し、各地を講演で飛び回っている矢野郁子先生。初めてお会いしたときの名刺はカレンダーの裏面に印刷されたもの、頂いた郵便は一度利用された封筒をリサイクルしたもの、そんな先生を見て「本物だっ!」と思い、ますます先生のライフスタイルに興味を持ちました。よくよく聞いてみると、電子レンジも炊飯器も持たず、洗濯機は全自動から二層式に買い替え、車も持たず、ご自宅は青森産のヒバとヒノキを用い、しっくい壁を取り入れ、大工さんに特注したものとのこと。ご家族三人暮らしで電気代の月平均は4千円!なのだそうです。

そこで、このコーナーでは矢野先生の暮らしぶりを拝見しエコのコツを学びつつ、グリーンコンシューマー10原則について、一つずつ解説していきたいと思えます。

☆☆

必要なものを必要な量だけ買う 今回のお題は冷蔵庫!



「冷蔵庫は小さい方がお徳って本当?! 矢野先生のご自宅の冷蔵庫は255ℓ!!」

255ℓといえば、主に单身の方が利用する中型(140cm)サイズ。先生は3人家族でいらっしゃいますが、このサイズを使っています。

この5月に冷蔵庫のカタログに表示されている消費電力の見直しがあり、大型クラスで従来の3~4倍になりました。以前の表示が、空の冷蔵庫で扉の開閉を考慮せず計測されていた、室温変動を考慮していなかった等のため、実態とはかけ離れた表示になっていたためです。盲目的に「大型冷蔵庫は省エネ技術がアップして、エコ度が高い」とは言えないようです。

こんなことは以前から承知していた先生。「小さい方が効率よく食材を管理できます。つまり、中の物が良く見えるので、何が残っているかすぐ分かるし、中の食材を使わないと次の物が入らない。このことは、食品を使い切るよい動機になります。大きい方が、目が行き届かず、食材を腐らせることにつながってしまうのです」とのことです。

☆☆☆矢野先生の一言アドバイス☆☆☆

毎日の食材、残さず使い切っていますか? 食費のうち約10%が手付かずで捨てられているというデータがあります。

買い物をする前に、冷蔵庫の中身を点検してみましょう。足りないものだけを買うようにすると、家計のムダも省けます。

冷蔵庫をスリムにするのは、シンプルライフの第一歩！ゴミは減り食費も節約、環境によし、家計によし。おのずから食材を大事にして、感謝の気持ちも湧いてくるというもの。

さらに考えを発展させて、モノに頼りすぎるライフスタイルを見直しましょう！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月13日

立会川浄化作戦！闘えEM菌だんご

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月15日

7月7日の川の日、今年で10回目を迎えた立会川環境美化運動が、地元の方々、大井警察署、東京都、品川区合同で盛大に行われました。

今回の目玉は、『EM菌だんご』と水草の『ホテイアオイ』を使った立会川の浄化作戦です。

EM菌とは、乳酸菌や酵母菌、光合成細菌など、自然界に生息する有用な微生物軍のことです。抗酸化・抗菌・抗ウイルス作用等があるとされ、生ゴミを肥料に変えたり、排水・下水などをきれいにしたり、悪臭を消したりするのに用いられます。川の浄化に用いられた例では、大阪道頓堀川の成功例があり、4ヶ月でヘドロが半減し、透視度は1m以上に、大腸菌も20分の1以下に半減、悪臭は消え、コイやボラが多くみられるようになったとか。これは期待できそうです！



これがEM菌をふんだんに土に混ぜ込んで作ったEM菌だんご。

手のひらにすっぽり入る大きさで、無臭。

乾燥しており、泥だんごより軽く、扱いやすい。

このEM菌だんご380個を、集まってくれた地元浜川小学校、水神児童センターの児童約50名が、弁天橋とその付近の川べりから川へ投げ込みました。



まずはEM菌についての解説を聞いて・・・「EM菌てすげえな」

我先にとEM菌だんごを奪い合う子ども達。



川に物を投げ込むなんて、そうそう体験できませんよね。

みんな結構マジメです。

さて、次は水草『ホテイアオイ』の登場です。ホテイアオイは窒素やリンを吸収する働きがあり、古くから水質浄化植物として活用されてきました。こちらも同じように、子供達が橋の上から、いかだ目がけて落としてゆきます。



立会川は、ホテイアオイが生息するには厳しい環境です。子ども達は、願いを込めて一つ一つ大切に投げ入れました。無事、立会川に定着し、育っていくようあたたかく見守りたいものです。

感潮区間のため塩分が混じり、流れが悪いため水質が悪化し、臭気の原因となるメタンガスが発生。そして、大雨になると処理しきれない下水が流入してしまう立会川。今回の『EM菌だんご』と『ホテイアオイ』による浄化作戦が、どの程度の効果をもたらすのか、品川区では追跡調査していきます。

立会川がますます地元の人々に愛され、誇りとなり、清らかな流れで人々に癒しを与えるよう、そしてホテイアオイの薄紫の花が川面で輝くときを願いつつ、第一回のレポートは終了です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月15日

立会川浄化作戦！闘えEM菌だんご への1件のコメント

1. ゆい より:

2007年5月23日 11:28 PM

今週の土曜日に運河沿いのマンションに引っ越しします。

窓を開けると 一面運河！！

臭いも無く、快適な生活を送れそうです、これも 皆さんのおかげです、か

れからも頑張ってくださいね。あと カラスが多いイメージが有りましたがどうですか？

ひょうたん池掃除と流しそうめん

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月15日

大井第一小学校の校庭内には、有名な『ひょうたん池』とよばれるビオトープがあります。この暑さの下にあって、そこだけ水と緑にあふれたオアシスのよう。子どもたちの大切な宝物です。

今回、オー2倶楽部（大井第一小学校おやじの会）さんが、このひょうたん池を掃除し、みんなで流しそうめんを食べよう！という企画を立てました。

この様子を環境情報活動センター石井と、おなじみ虫メガネ研究所が共同レポートします！

☆☆

6月24日、大井第一小学校の池の掃除に参加。参加者は、大井第一小学校・親父の会の若井田さん他5名、校長先生やお母さんの有志のみなさん、30名ほどの子どもたちの他、勝島運河倶楽部から片岡さん、環境情報活動センターから石井、そして虫メガネ研究所が手伝いました。

14：00集合予定でしたが、作業量等考えてみて子どもたちが集る前、13：30分池の水の汲み上げを開始。一時間でほぼ水を抜き終わりました。



中に捨てられた膨大な石やゴミ、長い間の落葉、ゴミを掬いながらの作業です。



デッキブラシで石を磨き、池にいた鯉、ヤゴ、ザリガニを救助。その後水を張り、17：30頃ほぼ完成しました。



ここの池は、約15×3メートルの大きな流水循環池で、3つに分かれています。

今まではどこのエリアにも鯉がいますが、今回の掃除で彼らの棲み分けをしました。

計画では一番上の池を、ヤゴ、クロメダカ池、一番下の池を鯉のエリアとするのだそうです。

今後、ヤゴ、クロメダカ池にアシヤガマなどを植え、景観など見た目も考えたビオトープにしていくのだそうです。

また、大井第一小学校には他に、2×5メートルの、ヒメダカ池、2×4メートル程度のオオカナダモが繁茂している、クロメダカ池、イトトンボがいる小さな池もあります。

これらも植物などのバランスを考えながら進めていく予定です。

大井第一小学校の桑野校長、伊佐副校長をはじめ先生方が、ビオトープなど自然環境に理解と関心があるのでうまくいっているのだと思います。

他校の先生で「ビオトープは放っておくもの」「池に土を入れればいい」という方もいましたが、これは勘違いであることを分かって欲しいと思います。

皆様、暑い中本当にご苦労様でした。



流しそうめんも美味しかった！！

南孝彦@虫メガネ研究所

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月15日

今静かなブーム☆です！『手作り箸袋』

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月26日

品川区にお住まいの環境情報センターさんからの投稿



「森林の樹木を守ろう」と立ち上がったグループが、手作りの箸袋を作りました。和のテイストがとても洒落ています。こちらは、リサイクルショップ「リボン」大井町店・旗の台店にて1枚300円で販売しています。一枚一枚が手作りのため、量産ができません。お早めにお求めください。

【管理者から】

私は既に3つ買いました♪

お箸の他、扇子や筆などを入れてもよいですね。ちょっとした贈り物にも喜ばれそう。

※この記事は「ECOの知恵袋」からの転載です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月26日



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月27日

ご近所づきあい

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年07月31日

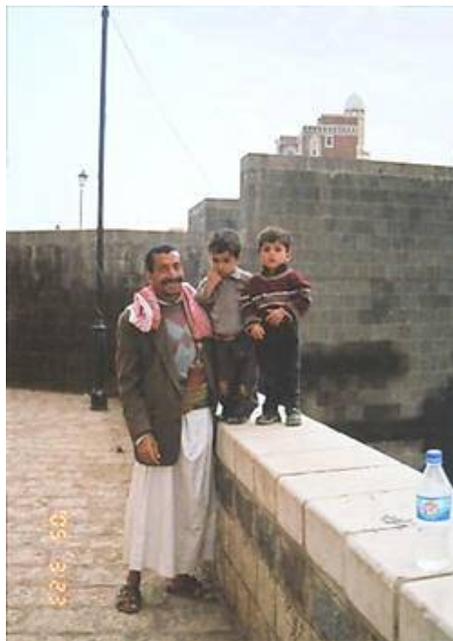
イエメンでの初めての半年間、私のストレスの種だったのは語学学校から寮までのわずか50メートルほどの道のりでした。生活の大半を占めるこの道のりの往復で、毎日同じ顔ぶれに「元気かい?」「うちに寄って行け」「最近うちに来ないね」などと声をかけられていたのです。



外人というだけで珍しいのに、当時日本人はその界限には私だけ。初めのうちはついつい愛想よく返答していたので、次第に声をかけてくる子供やおぼさんの数が増えていきました。

町内の人は皆私のことを知っているので、うかつなことはできません。留学生の男の子と並んで歩けば、「早く彼と結婚しなさい」などと言われます。近所の人たちはもちろん皆知り合いですから、見慣れない人は当然さりげなくマークされてしまうわけで、サナアの治安の良さはこういった部分で保たれていると言っても言いすぎではないでしょう。

しかし、私は東京生まれの東京育ち。隣近所とのつきあいがほとんどない高層マンションに住んでいたため、こういうのは正直言って初めての体験で、ご近所の方々に罰当たりにも「なんてうっとうしい人たち」と思っていました。



ですが今は、日本で人気がない通りで子どもが連れ去られたなんていうニュースを見るたび、自分は守られていたのかもしれないあとしみじみ思います。人とのつながりは時にわずらわしいことも多いですが、安心して暮らせる環境を作るにはと

でも大切なものなのだと気付かされました。



カテゴリ: 平成18年度

投稿日: 2006年07月31日

『カヌー創りワークショップ』を開催中です！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年08月04日

品川区にお住まいの勝島運河倶楽部さんからの投稿



会 場：水神児童センター

参加費：無料！

日程などはチラシよりご確認ください。

【管理者から】

カヌーを創って、乗ってみよう！

カヌーを一から創ってそれに乗るということで、なかなか出来ない体験です。是非参加してください！

※この記事は「親子で行ってみよう！」からの転載です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年08月04日

クロメダカがセンターのビオトープにやって来ました！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年08月20日

今環境情報活動センターのビオトープにはクロメダカが元気に泳いでいます。このクロメダカは、先日センター事務局員の石井と同大学の環境サークルの友人で品川区内の某所で採ってきました。写真はその友人が魚は居ないかチェックしているところです。



ここには沢山のクロメダカが泳いでいて早速魚を採る網を仕掛けました。数分待つと沢山のクロメダカ寄ってきて、この後引き上げるとクロメダカが20匹くらい網にかかっていました。



クロメダカは動きが素早く、さすが野生のメダカです。センターのビオトープでもすばしっこく泳いでいます。センターに是非見に来て下さい。



また、今回採集したクロメダカ(野生のメダカ)は環境省絶滅危惧?類に指定されていて、現在その生態系を保護する動きがあります。メダカの生態系を守るためにも、池に他の魚を放流することはもちろん、観賞魚として品種改良されたヒメダカやシロメダカを放流したりすることはやめましょう。

※尚、今回の採集に当っては許可を得て行っています。採集が禁止されている地区などでは採集しないようにして下さい。採集場所に関してはその地域の生態系を保護するために非公開とさせていただきます。ご了承下さい。

カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年08月20日

使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選ぶ

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月11日

グリーンコンシューマー原則

使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選ぶ



使い捨て商品でまずあげられるのが割りばしです。外食や弁当についてきて、いらないうちにも値引きしてくれるわけでもない。本体仕込みの価格設定がまず問題です。割りばしを別売りにすれば、消費者も考えてはしを断る行動につながるのではないのでしょうか？

ひところ、割りばしの原料は間伐材で環境破壊には無縁という説が出て、“マイはし運動”が低迷しました。しかし、私ははし持参を心がけています。

割りばしを使い捨てる行為は環境問題の象徴だと思います。一度きりで使い捨てる行為に慣れると、紙の使い捨てや容器の使い捨てなどの行為に罪の意識を感じなくなるのが問題なのです。原料はすべて間伐材というものも本当ではないし、森林の減少はとくに発展途上国で深刻で、どんどん植林をしても切ってしまった自然林の生態系は元に戻らないのです。

割りばしを使いたくないもう一つの理由は、ほとんどの場合、漂白剤に浸しているようです。なるほどカビないわけですね。

私はお茶などの飲料を買わざるを得ないときには紙パックを選びます。PETボトルや缶に比べて、製造から廃棄までの過程で、リターナブルびんの次に負荷が少ないからです。たまたまPETボトルを買ってしまったら、自分で作ったお茶を入れて10回以上再利用します。水筒なら長く使えてもっといいですね。自分で入れたお茶の美味しさを知ったら、市販のものは買えなくなるかも・・・手作りのお茶は美味しい、安心、安いと三拍子揃ってよいことづくめです。

容器で原料採取から廃棄までの過程で一番環境に良いのは、何度も使えるびんです（**リターナブルびん**）。びん入りの牛乳を買おうとしても、たいていのスーパーには置いてありません。日本では売れる商品しか置かないからです。ドイツのスーパーでは、さまざまな消費者のニーズを満たす商品があります。日本でも消費者の意識が高まってびん入りの牛乳が売れるようになれば、スーパーも競って置くでしょう。

私は幸い生産者とネットワークを作っていて、群馬県の東毛酪農からびん入りの低温殺菌牛乳を、ヤマキ醸造からびん入りしょうゆを購入しています。牛乳びんはリターナブルびんで洗って返却します。食材の多くを協同購入していると、プラスチックごみが少なくなります。リサイクルに回すからいいやと思いませんか？

リサイクル費用のうち90%が税金で賄われており、とくにPETボトルのリサイクルにはエネルギーを多く使うことをお忘れなく。

■参考■

容器の値段、知っていますか？

- ・食品トレー 5～20円
- ・カップラーメン 25～60円
- ・PETボトル 28～50円
- ・牛乳パック 8～10円
- ・アルミ/スチール缶 20～30円
- ・レジ袋 2～4円

出典：日本生活協同組合連合会資料（2005）

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年09月11日

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月05日

品川区にお住まいの勝島運河倶楽部さんからの投稿



勝島運河倶楽部では、2006年10月22日（日）「しながわ花海道」のクリーン作戦を行います！！

当日は、ボートで運河のゴミ拾い、遊歩道の清掃などを行います。そのあと、コスモスを見ながらバーベキューでお疲れさん会を行います。

皆様の参加をお待ちしています。

●日時：2006年10月22日（日）

10：00～12：00（清掃作業）

13：00～バーベキュー

*雨天の場合は、10月29日

集合：09：45 立会川河口 花海道プレハブ倉庫前

参加費：1000円+冷蔵庫にあるバーベキュー材料+飲み物

■お問い合わせ・参加申し込み・チラシイメージは、勝島運河倶楽部サイトへ

<http://unga.dip.jp/unga/>

【管理者から】

環境情報センターも参加します♪

お掃除した後の清々しさってホント気持ちいいですよ☆

青空とコスモスとビールなんて、最高じゃありませんか。これは行かない手はないです！

※この記事は「親子で行ってみよう！」からの転載です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月05日

わが町大すき！～スケルトン車とコンサート♪～

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月05日

9月23日土曜日、清水台小学校体育館にて「わが町大すき！」というイベントが開催されました。第一部、分別ゲームやスケルトン車の見学ができる「ゴミ・リサイクルについて考えよう」、第二部「みんなでつくるコンサート」の構成です。清水台小学校には150名程の地域の方々が集まりました。

●第一部「ゴミ・リサイクルについて考えよう」

清水台小学校の児童らを中心に80名程が参加。体育館前に乗りつけたスケルトン車にゴミを詰め込む模擬体験をしました。



これがスケルトン車。中のゴミの状態が確認できます。



一人一袋のゴミ袋を持ち、搬入口に投入。



脇にあるボタンを押すと・・・



おおおー圧縮されていくー。

その後は分別ゲームで楽しみながらゴミの選別の仕方について学習。「卓上コンロのガスボンベは資源ゴミではありません。清掃車が炎上したこともあります。」子どもたちのみならず、一般の参加者も一緒におさらいです。

お話して下さったのは、品川区清掃事務所の方々11名。皆さんお話が上手で会場からは笑いが絶えません。役者揃いです。

●「みんなで作るコンサート」

出演者は和太鼓の「チーム若葉」、清水台小学校の児童有志、その他一流のクラシック演奏者達など。太鼓あり、歌あり、琴あり、ピアノあり、オペラあり。老若男女、誰でもが楽しめる、それでいて本物の音楽に触れられる、素晴らしい催しでした。特に、和太鼓の荘厳さ・卓越した技術・子ども達の生き生きした表情には、不覚にも涙。





環境と音楽を結びつけたコンサートが今人気を博しています。期せずして、このイベントも時代の先を行くものであった気がします。よい音楽や芸術に触れることも、緑あふれる美しい地球に思いを馳せることも、同じように心洗われることなのだということを再確認した、とても素敵なひと時でした。

カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年10月05日

区役所の屋上で稲刈り！

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月17日

10月4日（水）、品川区役所の屋上にある屋上庭園の田んぼで稲刈りが行われました。

今年5月に田植えをして早4ヶ月、ビルの屋上とは思えない田園風景が！



5月に田植えをしてくれた二葉幼稚園の園児たち10人が、稲刈りのために再度集まりました。



稲の刈り方を教えてもらい、早速田んぼへ入っていきます。



はじめて使う「かま」。最初は職員ボランティアのみなさんと一緒にチャレンジしてみます。

最初は遠慮がちでしたが、だんだんと慣れ一人でもできるようになりました。みんな、自分の刈り取った稲の束を喜んで見せてくれました。中には、下に落ちていた稲を拾う子もいたり。自分たちが刈り取った稲の1本1本に大切さを感じているようでした。



収穫されたお米は、「九重モチ」というお米で、精米しておよそ8kgになる予定。

園児たちの次のお楽しみはこの収穫したお米での「おもち」を作りです。稲が育つのをずっと見守り続けてきた「かかし」もやっと役目を果たし安心したようでした。

(今日は園児たちのためにハロウィンのお面をつけていました。)

<田植え風景>今年5月

雨の中、頑張ってみんなで田植えをしました。

はじめはこんなに細く小さな苗でした。



○区役所屋上庭園

区役所屋上庭園は、都市部のヒートアイランド現象の緩和等を目的として設置された庭園です。区民が建物の屋上や生垣などを緑化する場合の見本として、環境に配慮して、床材や土壌などに各種リサイクル材を積極的に使用し作られています。区職員ボランティアが、昼休みや休日を利用して季節の草花や各種ハーブ、野菜などを育てています。

開庁日の9：00～16：00まで一般公開しております。ぜひお越し下さい。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月17日

廃油からエコワール石けん！～品川エトワール女子高校環境委員の取り組み～

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月17日

10月7日、8日と開催された、品川エトワール女子高校の文化祭「秋輝祭」。廃油を使って石けんやろうそくをつくり、広く区民の方に知ってもらうことで、リサイクル意識を高めようという活動を行っている品川エトワール女子高の環境委員の方々が、この秋輝祭で日頃の取り組みを発表する、ということを知り取材に向かいました。



この活動のコアメンバーは環境委員の5名。品川区の環境推進会議の推進委員としても活躍しています。

「廃油による水質汚濁を調べてみると、環境汚染のひとつとして重大な問題事であることが分かりました。ちょっと手間をかけて廃油を石けんに作りかえれば、油を流すこともなく、石けん代もうき、環境にやさしいのです。廃油石けんづくりを広めるため、エコ・フェスティバルで石けんを配ろう！それがきっかけでした」
商店街のカレー屋さんやお肉屋さんから廃油をいただくことから石けんづくりは始まりました。「使えないものでは仕方ありません。洗浄力を強化するため実験を繰り返し、使用感を確認しています。」完璧なる石けんへの熱意は本物です。
完成した星（＝エトワール）型の“エコワール”石けんは、今年6月に品川中央公園で行われたエコ・フェスティバルで配られました。出店コーナーは常に黒山の人だかりで、午前中には用意した200個すべてが無くなるほどの人気でした。同じように、手作りしたろうそく50個も、あっという間に無くなってしまいました。



上が廃油にオルトケイ酸Naまたは苛性ソーダを加えてつくった石けん。

下が廃油に凝固剤を加え、クレヨンで着色したろうそくです。

<アンケートより>

- * 運動靴を洗ったところ、靴ひもまできれいになった
- * 至極良い具合です。泡立ちもよいし、においも気になりません。
- * 靴下を洗ったところ、毛玉が目立つほどきれいになりました。
- * 強いて言えば、揚げ物をした後の鍋を洗ったようなにおいがするかも・・・





左が環境委員の小林さん、右が品川区推進会議のメンバーで、技術指導からろうそくの芯や容器など物品の提供まで、一貫して彼女達を支えてこられた日本ハム株式会社の目野さん。ろうそくの星型の陶器も目野さんの手作りです。「陶器も土から作られ、壊して作りなおすこともできる、リサイクル可能な地球にやさしいものなのです。」

今年の文化祭のテーマは、『ズバリときめき♪YOUもワシヨイしちやいなよ』。“ECO”も肩ひじ張らずに、みんなで楽しく熱くやっちゃおうよ、そんな彼女達の若さみなぎるまっすぐなパワーが、澄み切った青空と重なって、とても心地の良い秋の日でした。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月17日

「ECOであーすデイ！」～大井倉田児童センター～

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月19日

9月30日土曜日の午後、大井倉田児童センターにて「ECOであーすデイ」という、楽しく遊びながら地球を大事にすることを学ぼう！というお祭りが開催されました。

秋晴れの陽射しが心地よい午後1時、ぞくぞくと子ども達が児童センターに駆けつけてきます。元気なあいさつと共に、決して新しくはない、だけれど木や土のあたたかさが残る建物に、子供たちが吸い込まれていきます。



こんなポスターが随所に貼られ、センター内を歩いているだけでも楽しくて、なかなか先に進めません。

今回、このイベントの主旨に賛同し、すべて無料で出店してくださった団体の数は33。そのほんの一部をご紹介します。

●ペットボトルボーリング



ペットボトルを綺麗にペイントしたり、中に色水を入れたりしてリメイクし、子ども達の大好きなボーリングへと変身させた「とまとクラブ」のみなさん。「とまとクラブ」は、大井倉田児童センターの親子クラブ（2、3歳児と保護者の方）です。



景品も、お母さんたち手作りの、こんなに可愛いものです。

●環境クイズ



「サンゴは動物である」

「YESかNOか?！」

●ゴミ分別クイズ



「これは燃えるゴミ? 燃えないゴミ?」

それとも資源ゴミ?」

●空缶の一輪挿し



バケツ一杯の綺麗な生花を惜しげもなく提供してくださった、フラワーサークルのみなさん。

「家庭に一輪でもお花があると、ぱあっと明るくなるでしょう♪」

●押し花でしおりをつくろう



提供された数十種類の押し花は、すべて先生が育てたお花や植物。
植物に対する愛情の深さが伝わってきます。

●虫めがねをつくろう



「完成したら、地面や木の葉っぱや虫たち、いろいろなものをのぞいてみよう」

●庭を舞台にネイチャーゲーム



色探してポン、自然の形さがしビンゴ、風車づくり、コマづくり・・・メニューは多彩

この他にも、牛乳パックで紙すき体験、エコライフ度チェック、たべものクイズでホットケーキを食べよう、などたくさんのコーナーがあり、いずれも大盛況でした。

今回集まってくれた子ども達、大人の方は300名。袋いっぱいたくさんの景品を手にとり、笑顔で帰る子どもたち。遊び、笑い、楽しみながら、何かしら環境に関する「気づき」をも心に残したであろう、素敵なイベントでした。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月19日

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年10月30日

品川区にお住まいのしながわ花海道さんからの投稿



「勝島運河の土手に花畑をつくろう」を合言葉に、しながわ花海道プロジェクトが始動したのが、平成14年7月。以前は、雑草だらけでゴミや空き缶等の散乱や犬の糞の悪臭があり地元の人でもあまり近寄らないところでした。

現在は、春は菜の花、秋はコスモスと季節を代表する花の種をまき、きれいな花が咲いています。ここの土手には1.5m四方の区画が約1200枚あり、その区画を一般の方や地元小学校の児童たちが、それぞれ自分の畑のつもりで参加し楽しんでいきます。

あなたも、この活動に参加しませんか？

- 日時：11月5日（日） 午前10時～12時頃
- 受付場所：東大井区民集会所横 花海道大山丸栈橋前
- 持物 軍手 お弁当 シャベル 大（あれば）
- 費用 無料！

※当日は、ボートやカヌーが出廷します。種まき作業の後は是非お楽しみください。

【管理者から】

今年も種まきの時期ですね

庭や畑を持つって、今では結構ぜいたくなこと。

どうぞ花海道の畑で、土を耕し、種をまき、発芽をまつ喜びを味わってください。そして、花を愛するように、立会川も愛してくださいね。

※この記事は「親子で行ってみよう！」からの転載です。

カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年10月30日

品川宿カヌー教室～川から眺める品川のまち～

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年11月16日

品川区にお住まいの勝島運河倶楽部他のみなさんからの投稿



■日時 2006年11月18日（土）午後1時～3時

勝島運河倶楽部、NPO法人 地域交流センター、NPO法人 東海道品川宿、しながわ観光協会、旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会らが協力して、ボートによる「川から眺める品川のまち」というイベントを行います。

目黒川河口「東品川海上公園（運河の駅）浮き桟橋」から目黒川を大崎付近までボートで上る予定です。

当日は、Eボート（10人乗り）1艇、手づくりカヌー（2人乗り）2艇、エンジン付小型ボート（監視船）がでます。

お問い合わせ・参加申し込み・チラシイメージは、勝島運河倶楽部サイトへ

<http://unga.dip.jp/unga/>

【管理者から】

川から眺める品川のまち！！

確かに、自分が認識している品川の風景は、線路上もしくは道路上の風景に限られている気がします。

川から品川の街並みを眺めることによって、新しい発見がありそうです。

※この記事は「親子で行ってみよう！」からの転載です。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年11月16日

エコサポーターの皆さんをご紹介します

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月06日

エコサポーターとは、環境情報活動センターで開催される『環境学習講座』のお手伝いをしてくださるボランティアの方々です。



講座で使用する材料・工具などの準備、受講者の受付、講座での受講者サポート、写真撮影、講座のレポート作成、後片付けなど、お手伝いして下さる内容は多岐にわたります。特にクラフトなど工作の場合、ケガや火傷などの事故が起こらないよう気を配るなど、なかなか大変なお仕事です。

現在、登録して下さっている3名のサポーターの方々をご紹介します。

●片岡さん（20代男性）

大学、大学院と「環境経済学」を専攻し、「一般廃棄物を削減するには、どのような公共政策を導入するのが適切なのか」を研究してきた片岡さん。お仕事でもエネルギーに関わる分野で活躍されています。各地で開催されるマラソン出場のため、夜な夜なしながわ中央公園を走りこむ文武両道の方でもあります。

どんな場にもすぐうちとけて、場を和やかな雰囲気にしてしまうのは、彼の人懐かい笑顔によるものでしょう。好青年を絵に描いたような方です。

●大島さん（30代女性）

環境コンサルタント会社に勤務するバリバリのキャリアウーマンの大島さん。専門は海洋生態系のシミュレーションで、大学院時代も海洋研究に携わっていたとのこと。私生活でもヨットを愛する海の女です。

頭の回転が速く、迅速に動き回る姿には、もうボスの風格が。日焼けした肌に健康的な笑顔が海の逞しさを彷彿させます。

●鈴木さん（30代女性）

7ヶ月の息子さんを背負いながら、教室を動き回ってサポートして下さる鈴木さん。乳児を育児中の母親は、ボランティアされたいほど忙しいはず。それがボランティアする側に回って下さいました。学生時代に弓道部で鍛えた体力と精神力がその強さの根源でしょうか。凛とした母の美しさに、羨望の念を禁じえません。素敵なお顔に癒されます。

環境情報活動センターの環境学習講座は、彼・彼女らサポーターのお力添えによっ

て成り立っています。
(現在、エコサポーターの募集は受け付けておりません。)

カテゴリ: 平成18年度

投稿日: 2006年12月06日

『品川自然観察会』の活動をご紹介します

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2006年12月28日

品川シルバー大学で学んだ同窓生が、コース終了後も自主グループ『品川自然観察会（会長 綱井照高氏）』をつくり、月に一度専門の講師を招いて都内近郊の公園等を散策していると聞き、さっそく取材に同行しました。

コースの修了生が57名、その内の38人が会員となりました。口コミで活動の噂が広がり、入会希望者が後を絶たないのだとか。団体として行動可能な人数を超えるため、キャンセル待ちとさせてくださっているほどの人気です。

さて、自主グループになってから4度目の観察会は、12月8日、明治神宮にて行われました。講師は、都市鳥研究会代表の唐沢孝一先生

<http://www1.odn.ne.jp/~aab87210/>。カラスを初めとする鳥の権威です。

時間通りに待ち合わせ場所に着くと、すでに黒山の人だかりが。遅刻などあるまじき雰囲気、皆顔を紅潮させ、意気込んでいる様子です。この日は35名が参加しました。

明治神宮であれば、参拝されたことのある方も多いと存じますが、JR原宿側の表参道方面から入って大鳥居をくぐり、本殿を目指すルートが一般的かと思います。今回は、JR代々木側の裏参道の別称をもつ北参道より神宮内苑を散策します。そこには、今年一番の見ごろであろう紅葉の風景と雅楽の調べ、樹影を映し水鳥の浮かぶ池、樹間に遊ぶ多くの野鳥など、都会の喧騒から離れた別天地が広がるのでした。



「わー、綺麗だね」で終わることのないよう、唐沢先生が随時解説を交えてくださいます。この日観察できた鳥類は、オシドリ・ハクセキレイ・アオジ・ルリビタキ・メジロ、解説があった樹木は20種に及びます。



「ぼーっと歩くのではなく下を見て、上を見ること。ここにカラスのフンがたくさんありますね。この上がカラスのねぐらになるわけです。」



「これはもぐらの塚です。塚の下にはトンネルが掘られており、ミミズを捕らえるワナなのです。」



「クスノキにおそらくヒヨドリが“フン”で植林したようですね。ネズミモチの木が parasit しています。おそらく10年以上は経っているでしょう。」

10回の講義を共に受けただけで、自主グループを作り、運営していくのは大変なことです。実は、その秘訣がどこにあるのか、それを探ることも取材させていただいた目的でした。参加させていただき、次の3点が、うまく働き合っているのだと結論づけました。

第1に、講師の解説・講義がとても面白く、内容の濃いものであること。唐沢先生の解説は、動植物の話のみならず、東京の歴史や地理・文化までに及びます。動植物を通して、先生の哲学や世界観が浮かび上がってくるようで、知的好奇心が刺激されます。また、解説には必ず「ジョーク」を交えているので、受講生の間では笑いが絶えません。単純に楽しい、だから参加したい、という受講生の意欲は、唐沢先生の講義の手腕にかかっていたようです。



第2に、会の事務局がしっかりしていること。企画や講師との交渉、会員への連絡から下準備、その後のフォローまで、担当が決められ、組織が確立されています。写真の得意な方は記録を、パソコンの得意な方は事務作業を、労力を惜しまず、ボランティアで会の運営に取り組んでいらっしゃいます。

第3に、会員の皆さんが非常に熱心で、好奇心も旺盛で、自然を愛していると同時に、会を大事にし、盛りたてていること。会員は皆、会員証を携帯し、胸にフクロウバッジを付けて観察会に臨みますが、このフクロウバッジは会員の中村さんがひとつひとつ手作りしたものです。



「なかなか一人ではこんなところ来ないけど、大勢だと楽しくてね」そんな会員の声がありました。仲間がいるから楽しめる、世界も広がる、心豊かに過ごすことができる。そんなことを再確認させてくれた、品川自然観察会の皆さんでした。

カテゴリ : 平成18年度

投稿日 : 2006年12月28日

『品川自然観察会』の活動をご紹介します への1件のコメント

1. ショウジ より:

2007年1月7日 4:46 PM

私は最近「環境の勉強」と題して様々な環境にやさしい製品やリサイクルをブログで取り上げている者です。環境のキーワードで環境情報を調べていたところ、こちらのHPに辿り着きました。区役所での屋上緑化や環境情報活動センター、クリーン活動など様々な環境教育や情報提供に品川区が取り組んでいるということに感激いたしました。これからもがんばってください！！

環境講演会およびしながわ環境大賞授賞式が開催されました

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月17日

平成19年2月17日土曜日、「きゅりあん」小ホールにて、環境講演会およびしながわ環境大賞授賞式が開催されました。

環境大賞は今年度品川区によって創設され、環境保全に関する活動が、他の団体の規範となる団体や個人を顕彰し、その活動を広く区民に紹介することにより、区民の環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的とするものです。



(左) 開場前には長蛇の列が。立ち見も出る程の盛況でした。

(右) 厳粛な雰囲気の中、受賞された方々が表彰式に臨みました。

【第一部 しながわ環境大賞授賞式】

受賞団体は、以下の通りです。

環境大賞

しながわ花海道プロジェクト

「水辺の環境美化」と「花いっぱい運動」

南大井第四町会

生活環境の保全と廃棄物減量の活動〜クリーン キャンペン〜

・品川エトワール女子高等学校

廃油の活用促進運動

環境賞

トヨタエルアンドエフ東京◆

地域環境保全活動

朋優学院 アトラクション部

ヒーローショー（アトラクション）を通じた環境啓発活動

品川区立 第一日野小学校

環境学習への取組 「学校から家庭・地域の活動へ」

品川区立 西中延保育園

エコ教室 「親子で作ろうリサイクル工作」

品川区立 荏原西保育園

保育園における環境教育

こどもエコクラブ「空の会」

小さなことから始めよう！ 「空手道場からエコキック！」

受賞者には、賞状とガラスのトロフィー、副賞として区内共通商品券が授与されました。

【第二部 環境講演会】

「ハートフル・トーク～身近な環境を考える～」と題して、神津カンナ氏が講演を行いました。神津氏は、執筆活動の他、テレビ等への出演や講演、公的機関の審議委員など、多彩な活動をされています。

集まった区民200名の方々は、ユーモアを交えたお話に、時に笑いながら、時に何度も頷きながら、熱心に講演に聞き入っていました。

【第三部 大賞受賞者の環境活動報告】

大賞を受賞された三団体より、それぞれ活動報告がありました。



「環境」というキーワードを通して、人が集まり、活動していくことが、環境保全の促進のみに留まらず、豊かな街づくり、人づくりに繋がっているようです。

「まずは、身近な環境に目を向けてみよう」「家族や友人と、環境のことを話してみよう」「私には、何が出来るか考えてみよう」そんな気持ちを胸に、ほころんだ顔で帰路に着く人々の姿とともに、イベントを終えました。

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月17日

第2回しながわ花海道クリーンアップ作戦レポート

カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月31日

平成19年1月21日午前10時より、第2回しながわ花海道クリーンアップ作戦が決行されました。しながわ花海道は、JR東日本◆主催「駅からハイキング」のウォークラリーのコースに選ばれ、翌週には3000人を超す観光客が足を運ぶ予定です。少しでも綺麗な花海道を見てもらおうと、しながわ花海道プロジェクト

(<http://www.touch-i-love.co.jp/>)と勝島運河倶楽部(<http://unga.dip.jp/>)が共催で企画しました。



「勝島運河の土手に花畑をつくろう」を合言葉に、しながわ花海道プロジェクトが産声を上げたのが平成14年7月。以来、4年間で10回の種まきを実施してきました。春は菜の花、秋はコスモスが咲き乱れる、まさに「花海道」です。

勝島運河の土手には1.5m四方の区画が約1200枚あります。その区画を地域住民の方々や地元小中学校の生徒たち、企業の方々などが、それぞれ自分の畑のつもりで種をまき、花を育てています。今日は、10月に植えた菜の花の種が発芽し、ぐんぐん成長してきたものを間引き、虫を取り、水や肥料を与えて世話をします。



「こういう黄色い葉っぱに虫がつくんです。放っておくと広がっちゃうから、今のうちにつんでおくのよ。」八潮から足を運んだ方。



雨水タンクに貯まった水をたっぷり与えます。おばあちゃんから子ども達まで家族総出で参加です。

また、運河沿いの散歩道をトング片手にゴミを拾い歩きます。イヌの落し物などが目に付きました。

11時から花海道でバラ園を育てている、財)日本ばら会上級指導員の上山さんによる「バラの育て方講習会」が開催され、集まった30人程の方々が熱心に解説に聞き入っていました。剪定した枝を挿し木用にプレゼントされた受講者の方々は、笑顔で大事そうに枝を抱えて帰路につきました。



さて、ここからは勝島運河倶楽部の出番。カヌーによる水面のゴミ拾いに出航です。前日の雨で流されたのか、ゴミは予想外に少なく、風を切って進むカヌーの爽快感と、水面に浮かぶ無数の水鳥たちの優雅さに心洗われる思いでした。



種を蒔いただけでは、植物はうまく育ちません。労力を惜しまず足を運び、愛情を持って花を手入れしていらっしゃる地域の皆さん、小中学校の子ども達、管理運営の一切を担う花海道プロジェクト事務局の皆さんの熱意に思いを馳せながら、是非、しながわ花街道を歩いてみてください。



カテゴリ：平成18年度

投稿日：2007年03月31日